

活動報告 2025 年 12 月～2026 年 4 月



自然共生サイトに認定。国の承認を得ることができました。



自然共生サイト認定 30by30

特報として、昨年 12 月にお知らせしましたように環境省から「自然共生サイト」の認定を受けました。「おだわら めだかの郷」というタイトルとなって世界中に発信されることになりました。詳しくは、12 月の特報（添付しました）をあらためてご覧ください。事務局では、今回同時に認定された富士フィルムと Meiji seika ファルマに声を掛け、「自然共生サイト」の意義について 3 団体合同でアピールできる機会を持てないかの相談を始めています。2 社の取組は企業としてのチャレンジでもあり、私たち市民の手によるプロジェクトとは少し違いますが、今後の桑原の開発に伴う企業誘致の際に大いに参考になるモデルでもあり、そのヒヤリングは貴重なものとなります。この 3 者による交渉、相談の経緯は改めてお知らせしますのでお待ちください。

皆さんの協力で、ユーチューブ動画が次々に完成しています。

「水辺のパトロール日誌」が 3 本目が完成しています。制作は、荒木さん、昨年秋に新会員となられた高口智子さんが撮影と編集を担ってくれています。これから春から夏へ、水辺の生き物たちも活発に姿を見せてくれる季節となるので楽しみです。3 本目のナレーターは、遠竹優菜さん。社会人としていま岐阜で仕事をされていますが、ナレーション音声を送ってくれました。遠方にいても参加、何とも嬉しいではありませんか。メダカのアニメが時おりありますが、こちらは大橋美恵子さんの描いたもの。プロとしての技の提供ですよ。有難うございます。「水辺のパトロール」だけではなく、今後は「小さなビオトープづくり」や「アメリカザリガニのオス・メスの見分け法」、「外来植物の駆除について」など、プログラムの開発も進めていきますので楽しみに。皆さんもこんな動画を、というアイデアを寄せてください。



オオフサモ、クレソン、ともに外来種を駆除。



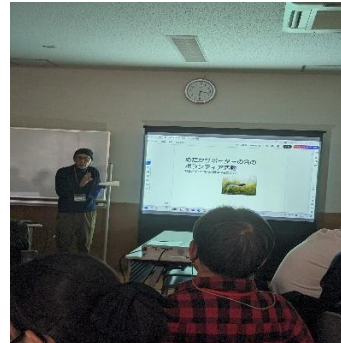
2月21日、この日はパトロール日でもありましたが、特定外来種のオオフサモの駆除も行いました。ゴミ袋は20袋。右は、新薬裏の西側ワンドでのクレソン駆除に汗を流す内田君と加藤大季君。内田君は網走の大学から帰省中で、21日のオオフサモとこの日のクレソン刈に参加。加藤大季君はほぼ1年ぶりの参加、西湘高校3年生のときに初参加しましたが、首都大学生となって久々にやってきてくれました。若いチカラが嬉しいですね。

クレソンは肉料理の付け合わせ食材として人気ですが、実は要注意の外来植物。オランダガラシという名前でもあります。上野の精養軒が輸入して人気となり、全国の洋食店が次々に輸入し、少し高級な食材として売られるようになりました。このクレソン刈のときにはたくさんのドジョウがいたのですよ。内田君が大声をあげていました。

若者たちとの繋がり、その工夫についての講演を。

ボランティア団体にとっての大きな悩みは、若い世代が定着してくれないこと。その課題にどう向き合えばよいのかというテーマでサポーターの会の事例を話してくださいというオファーを頂戴し、おしゃべりをしてきました。現在、20代以下の会員数は13名（高校生以上）会員全体の約16%となっています。決して多いとは言えませんが、2020年まではひとりもいなかったのです。5年ほどの間に10数名が参加するようになってきたわけです。特別に動いたわけではないので、世の中の風向きが「環境」や「生物多様性」という課題を重視するようになってきた、と自分では認識していたわけですが、あえて言うならば、高校への働きかけだけは意識してきたといえます。

大磯高校、小田原高校、相洋高校、星槎高校、西湘高校、旭丘高校などへは何度も足を運び、活動紹介の機会を持ちました。学生は入れ替わるわけですから繰り返しがとても大切です。同時に重要なのは、彼らの学生生活のリズムを理解し、無理強いをしないということ。その代わり、情報発信は丁寧に行い、「めだかサポーターの会」の存在を刻み込んでおくことではないかと思うのです。会場では、いろいろな意見（若者だけでなく、市民活動のリーダーたちもふくめ）を聞くことも出来、こちらも大いに参考に。



「農援会」という集まりがスタートしました。

休耕田を復田してメダカの生息地の減少を防ぐ、「田んぼを守れば、メダカも守れる」と主張してサポーターの会では活動のなかに稲作との関わりにも重きを置いてきました。この「農援会」の主眼は、メダカのために、という枠組みは後退させ、農業の持続化、稲作だけでなく、畑も含めた農業全般の持続可能性を追求することに重心をおいてスタートしています。結果としてメダカも含めた生物多様性維持も実現、ということですね。タマゴが先か、ニワトリが先かのような話ではありますが、いわば兄弟分のような間柄となるのではと考えています。「おだわら農人めだかの郷」の若手のメンバー（とはいえ、50代、60代）と赤松大介さん（彼は、農人のメンバーでもあります）が中心となり、市の農政課などの協力も取り付けてスタートしました。田んぼで言えば、年間の参加料を収め、田起こしから収穫まで一貫して稲作に関わるというもの。もちろんスポット参加もOKということになっています。

サポーターの会は毎年行っている田植えや稲刈りは継続していきます。（木工団地前の田んぼと、県道711号沿いの酒米自然農法田）途中の草取り作業については□毎年苦勞しますのでどう対応していくのかを、いま山田さんと相談中となっています。

予告

2026年度定時総会を行います。

4月29日（祝） 10時より UMECO 会議室5
議案書を4月中旬には送信しますので、ご確認のうえ出欠をお知らせください。
出席が難しいかたは委任状も添付しますので、送付をお願いいたします。

ホームページがリニューアルされます。4月29日公開。

現在のホームページも10年が経過し、情報の上書きもされずにきましたので内容更新も含め、リニューアルの作業を行っています。
高口智子さんが中心となり、荒木さん、大橋さんの意見を頂きながら、村田がテキストを整理しています。

若者たちの近況をお知らせします。

3月、4月は、別れの季節であり、同時に出会いの季節です。
高校から大学へ、中学から高校へ、職場の異動や、社会人として巣立つ人もいる。
そんな彼等13人の近況をまとめています。もうしばらくお待ちください。
カンタンなレポートを作成し、お届けします。

田植えのご案内。

日程はまだ決まりませんが、めだかサポーターの会の田んぼの田植えを行います。
5月下旬と6月上旬の2回を予定しています。
改めてご連絡差し上げます。

